

睡眠時無呼吸検査(脳波付PSG)

なにがわかるの？

簡易検査で異常があった場合に、PSG検査という精密検査を行い、より詳しく睡眠中の状態を調べます。
脳波・筋電図・心電図・呼吸・血液中の酸素等、さまざまな生体信号を測定するためセンサーを装着し、無呼吸の程度、酸素の低下状態、睡眠の質、不整脈の有無など総合的に検査し睡眠時無呼吸症候群の診断を行います。
この検査はさまざまなセンサーを装着する必要があるため1泊入院して行います。



《頭部の様子》
主に睡眠の状態を測定するために電極を装着します。
電極が外れない様にネットで押さええます。

《体部の様子》
主に呼吸の状態を測定するためにセンサーを装着します。

《指先の様子》
血中の酸素状態を測定するためにセンサーを装着します。
※ 一晩中赤く光っています。

どんなことをするの？

- ①睡眠の質を調べる為に脳波、筋電図、眼球電図の電極を頭、目の横、額、耳、顎の皮膚に装着します。
- ②睡眠中の呼吸の状態を観察する為におなかと胸にバンドをつけます。口と鼻には、息を測るセンサーをつけます。
- ③首に気管音を録音する為のマイクをつけます。呼吸の状態のほかイビキの強さ、質などがわかります。
- ④指には酸素や脈を測定する為のセンサーをつけます。
- ⑤胸に身体の向きを感知するセンサーをつけます。横向きの時にはイビキや無呼吸が軽くなる人と、そうでない人がいるからです。
- ⑥足に周期性四肢運動を感知するための電極をつけます。
周期性四肢運動は無呼吸とは別に、睡眠を妨げる可能性があるからです

おねがい

たくさんのセンサー類がじゃまに感じるかもしれませんが、決して痛みを伴うものではなく、途中でトイレに行くこともできますので安心して検査を受けてください。
診断結果は約2週間後に、外来にて説明になります。